

第 14 回 石西礁湖自然再生協議会議事概要

日 時：平成 23 年 1 月 28 日（金）

14:00～17:00

場 所：沖縄県八重山合同庁舎

■日 時：平成 23 年 1 月 28 日（金）14:00～17:00

■場 所：沖縄県八重山合同庁舎（旧八重山支庁）

■参加者：委 員：43 名（個人 15、団体・法人 12 機関 12 名、行政 13 機関 16 名）

※協議会事務局除く

傍聴者：8 名（うち報道関係：4 社）

事務局：14 名（環境省/6 名、沖縄総合事務局/1 名、その他/7 名）

計：65 名

■議事次第：

1. 開 会

2. 挨拶

<前田さんおかえりなさいセレモニー>

3. 議 題

- (1) 生活・利用に関する検討部会からの報告
- (2) 石西礁湖自然再生協議会アンケートの結果について
- (3) 石西礁湖自然再生協議会の体制について
- (4) 石西礁湖サンゴ礁基金について

4. その他

- (1) 石垣島サンゴウィークについて
- (2) 石西礁湖のサンゴ被度の変遷
- (3) 事務局からのお知らせ

5. 閉 会

■概要：

(0) 途中参加委員の承認

協議会委員の鷺尾氏より推薦のあった、東郷得秀さん（「石垣の塩」）について、拍手を持って新規メンバーとして一緒に活動していくこととなった。

(1) 生活・利用に関する検討部会からの報告

石垣港湾事務所より、生活・利用に関する検討部会からの報告がなされた。

●成果1：安全確保のためのルールの検討状況

船会社や漁業関係者など、様々な観点からヒアリングを行った結果、特に直接的な危険、人身事故に結びつく事案がいろいろ見つかった。また、船会社と漁業関係者の方々の情報交換の場がなかった。

→安全対策も含めて竹富南航路周辺海域を利用している船会社と漁業関係者の方の連絡調整の会議を立ち上げた。

●成果2：「第1回竹富南航路周辺海域利用連絡調整会議」の開催

以下の項目について調整を行った。

- ①原則決められた航行経路に従って通航する。
- ②できるだけ接近しないで漁を行なう。
- ③定期的な連絡体制。連絡・情報交換の場を設けて行っていく。
- ④船会社の調整：H22.4より、船便を少しでも減らしていくための共通チケットの導入。

●成果3：「第8回生活・利用に関する検討部会」の開催

船会社の船長さんと漁業者の方々へ配布した資料の報告。

- ・ 高速船や貨物船への航行自粛経路。
- ・ 高速船（旅客船）は、小型ボート、漁船、サバニなどの近くを通るときは減速する。
- ・ 漁船は、航路幅が狭いところでできるだけ操業は避ける。
- ・ 操業中の漁船は、どのような作業をしているのか目印をつけること。

（質疑）

・満潮時にショートカットしたコースで海底のかく乱が起きているとは、実際にはどういったことが起きると報告があるのか。

→水深が1m未満のところでは20～30ノットという非常に高速で走ると、海底の砂を巻き上げてしまう。また、船の通航による流れに伴って周りにはある程度砂を拡散させて、濁りの発生の要因になるということが想定される。しかし、定量的な影響は把握できていない。

(2) 石西礁湖自然再生協議会アンケートの結果について

運営事務局より、以下のアンケートについて、その結果と事務局の対応を説明した。

①石西礁湖自然再生協議会における議事について

「協議会で取り上げてほしい議事、紹介してほしい情報」(5項目)

「紹介してほしい情報」(13項目)

②石西礁湖自然再生ロゴマークの作成について

33名の方から回答をいただき、新しいマークを作成する(7/33)、現在のマークをそのまま利用(26/33)となった。

③今後の取組体制(案)について

31名の方から回答をいただき、前回、普及啓発グループのほうから提案のあったものをベースに移行を検討したいというような意見が多かった。

④石西礁湖自然再生協議会の運営について

11項目の意見をいただいた。→次回以降にいかしていく。

⑤石西礁湖自然再生ニュースレター、ポータルウェブサイトについて

8項目の意見をいただいた。→今後の作成、運営にいかしていく。

⑥の昨年やったことと今年やること

メーリングリスト等を通じて、活動をされる中で協議会委員への協力や参加の呼びかけ、このような取組に協力したいというような情報交換をする際の参考にしてほしい。

(3) 石西礁湖自然再生協議会の体制について

①ロゴマークについて

(2)で運営事務局より説明があった内容を踏まえ、議論を行った。

- ・ マークのことを考える際に、「石西礁湖」という言葉がどんなふうに説明したら浸透するのかを考えるひつようがある。
- ・ デザインとして、パッと見て、一般の方がサンゴ礁を思い浮かべることができるかどうかというところを大切に考える必要がある。
- ・ サンゴ礁基金としてサンゴ礁基金のマークをつけた商品、地元の産品、それを売ろうというアイデアがかねてからある。そういったマークにも活用するのであれば、別につくる必要がある。

②体制変更について

(2)で運営事務局より説明があった内容を踏まえ、議論を行った。

- ・新たに提案した体制は、名前が変わっているが、現在の体制と連続性がある、大幅に変わっているわけではない。
- ・現在の体制との違いは、今までは協議のためのグループだったが、そこから実施部隊として機動的な体制になるということ。
- ・WGでは、「地域主導で運営」と「協議会メンバー以外との連携」が重要。
- ・体制についての承認も必要だが、俺がやってやろうと地元から出てきていただく、ここは誰がやれば一番適任か具体化していくということが期待される。
- ・例えばある期間、具体的なプログラムやプロジェクトや課題のときに地域でどの方が出ていただけるかとか、この課題のときには関連する他の団体と連携していくとか、結成や解散に自由度を持っていくのはどうか。
- ・「八重山地域の集い」では、地域で月に1回集まって、いろいろな課題を話し合っているということでしたが、この半年以半全然活動していない状況です。
- ・協議会として、提案の体制を土台として、実際に石西礁湖のサンゴ礁の回復に到達できるような新しい体制をつくるために前向きに議論していただくことを承認。

(4)石西礁湖サンゴ礁基金について

石西礁湖サンゴ礁基金運営委員会（恵氏、鷺尾氏）より説明を行い、議論を行った。

- ・Give Oneサイトでの継続寄付や、事業者からの売り上げの一部を毎月寄付、企業の社会的貢献として社員募金先にサンゴ礁基金を選んでいただいていることから、一定額の寄付は見込めるようになった。
- ・今後は、もっと積極的に個人の方、特に地元で観光客をターゲットとした寄付を募るのをやっていきたい。
- ・オンラインの寄付サイトGive Oneにおいて、オニヒトデ駆除に次いで、サンゴ礁再生に向けた赤土流出防止プロジェクトでの追加登録をいただいた。
- ・日本興亜損害保険株式会社の「おもいやりプログラム」に「ファンドレイジング（資金調達）プロジェクト」で応募したが、不採択となった。
- ・助成事業としては以下の通り。
 - 八重山ダイビング協会の「オニヒトデ駆除」は、8月4日に終了。
 - 干川明さんの「サトウキビ株出し栽培への農法転換推進」は、現在実施中。
 - コーラルウォッチプロジェクトについては、昨年8月17日で助成を決定し、継続中。

(質疑)

- ・オニヒトデは、駆除後の処理はどうなっているか。
- ・石垣では堆肥センターに運び込んで堆肥の材料にして処理しており、西表や竹富町のほうでは埋設処分などもしている。
- ・キビ刈りでは機械を使うと採算が合わないという場合もあるが、農家にとってはプラスになっているのか。
- ・株出しというのは、収穫しながら株の手入れをする必要があり、農家にとってはすごく大変なので、この機械がうまく入ればいいと思っている。
- ・キビ生産者組合の方に説明をしに行かれた際の反応というのはどういったものがあつたのか。また、うまくいく農地と、うまくいかないかもしれない農地について、その原因はある程度予測があるのか。
- ・農家は、儲かることだったらやるというスタンスなので、あんまりわからないようなことというのはやらない。単なるばらまきではなく環境保全のためなら助成するという形で導いていくことが必要。
- ・株出しについては、肥沃土かが大きい。沖縄本島では例えば5割ぐらい株出しができているが、他の土地ではほとんど夏植えの株出しが出ないというのは、やはり土の肥沃土が非常に低いということで、この辺が1つ問題だと思う。
- ・もう1つ大きな問題として、サンゴ礁への栄養塩流出がある。家畜糞尿や化学肥料などが最終的に海に流れ込んでいる。その関連プロジェクトもできたらやっていきたい。
- ・株出しがうまくいったとき、そのサトウキビに付加価値をつけ、農家にもちゃんとお金が入るようなシステムがあればよい。

4. その他

(1) 石垣島サンゴウィークについて

石垣市観光協会（前津氏）より説明を行い、議論を行った。

- ・財団法人地域活性化センターから助成を受けて、石垣市、石垣市観光協会、八重山ダイビング協会の3団体で、昨年末12月に石垣島サンゴウィーク実行委員会を設立した。
- ・3月5日（サン・ゴ）からの1週間をサンゴウィークと設定して、サンゴ礁の保全、エコツーリズム等の普及、次世代の人材育成などを含み、大自然と観光産業の調和した新たな観光メニューの創出、また県内外からの観光誘客を目的に開催するイベント。
- ・石西礁湖自然再生協議会として、コーラルウォッチプロジェクトということで、サンゴの普及啓発のイベントをできたらと考えている。

(2) 石西礁湖サンゴ被度の変遷

協議会会長の土屋先生より、石西礁湖のサンゴ被度の変遷について発表いただいた。

- ・長い歴史を持つ石西礁湖のサンゴ礁の調査の中でどんなことがわかってきたか、あるいはわからないのかを詳しく知るためにデータを整理した。
- ・石西礁湖の中は、110ヵ所以上のところで、毎年調査が継続されている。
- ・調査は1983年から始まり、ちょうどその頃オニヒトデがたくさん発生し、時間がたつて回復し、また減少していく。この理由がわからない。
- ・1998年は世界的に白化が起こってダメージが大きかった年だが、その後サンゴの状態が悪くなってきている。その原因を探る必要がある。
- ・黒島の周りでは、非常に近い場所でもサンゴの変化が異なるので、その原因を探りたい。
- ・その他、全体計画で示す、私たちの活動に関するいろいろな情報として、人口、船舶乗降人数の推移、観光客数の推移、旅客数の推移等もグラフにしてみた。
- ・ぜひ、これらのデータについて、石西礁湖で活動している皆さんから、ここではこんなことが起こっていたと情報をいただき、今後の再生活動にいかすことができればと思う。

(3) 事務局からのお知らせ

運営事務局より、懇親会のお知らせを行った。

4. 閉 会

以上